

現代教育における矛盾

3年2組2番 足立真生子

1はじめに

みなさんは日本の教育理念が戦後約70年間何一つ変わっていなかったということをご存知だろうか。私たちは牢獄のような授業形態、校則、そして成績という名の権力に縛られている。私は軍隊のような堅苦しい日本の学校の雰囲気がとても嫌いであった。この時代にもなって、70年前の教育が今も行われているという絶望的な現状を一人でも多くの人に知ってもらい、改善の糸口となればいいなと思い、このテーマを研究対象とした。

2序論

今の日本の学校教育が作られた背景として、アメリカのGHQが挙げられる。GHQは戦後当時アメリカの統治下であった日本の法律そして教育などを一から作り上げたのだ。この教育の主な目的としては、国のレベルを一斉に上げる「国主体」の教育であった。高度経済成長期直前だった日本では、工場で手作業で行う仕事がほとんどであり、働く人全員が同じ作業を淡々と完璧にこなす必要があったため、ロボットのような人材を育てる学習環境が重要視されたのである。こういった教育のおかげもあって日本は戦後から著しく成長を遂げ、一気に先進国の仲間入りとなった。だが、それから約70年も経った今でも根本的な教育改革が一切行われておらず、何一つ変わっていない。果たして、これら戦後の教育がもたらす現状とはどのようなものなのか、現代の学生はどのように感じているのか。

文科省https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318255.htm

3本論

まず、今行われている教育の問題点をあげていく。

1つ目は日本人特有の完璧主義により、どの教科も平均かそれ以上にできなければならないという雰囲気があること。何もかもオールマイティーにこなし、人生において正確な道を進むのが理想の人物像だと皆が無意識に定義付けてきたためである。小学生から成績優秀で、いい高校、大学に行き、いい会社に就職して高い給料を貰う。学校ではこれらを達成することが人生の目標だと教えられてきたようなものだ。学生がこれが世の中の全てだと思ひこむのも無理はない。こういった教育により、必要以上の学歴社会が生まれ、学生にとって生づらい世の中を作り出してしまったのである。たかがペーパーテストごときで人の人格が測れるわけでもなく、仮に勉強ができたからといって将来必ず成功するわけでもない。

人は生まれつき得意不得意があるのは当然である。運動が苦手な子がいるのと同じように、「全員ができて当たり前」はどの分野でも存在しない。

2つ目、教育委員会が定めた1年間の学習内容をきっちりこなさなければならないので、子供たちの個性はフル無視であること。非常に効率が悪い。せつかくの若い時にやりたいことを封じ込め、特に興味のない勉強だけをやらされるのである。その結果、大人になった時に自分の適性が分からず苦勞している人も多い。ただでさえ普通に生きていても自分は何が得意で何に興味があるかなどわかるはずがないのに、学校内で全員が決められた授業を機械のよ

うに消化していき、結局生産性のない時間を小学校中学校はまだしも、義務教育ではない高校までやり過ぎなければならぬ。若い年代はさまざまなことを経験できる年でもあり、吸収する能力も高いため、その期間を無駄にするのはもったいないのである。しまいには高校受験、大学受験を半強制的に受けなければならなくなる。なぜなら中卒高卒大卒ではこれから生きる未来に差が出るからだ。現代社会がそうさせているのは紛れもない事実で仕方がないのだが、特に高校受験は個人的に無意味だと思う。どのレベルの高校に行ったとしても、結局は個人一人一人がどうするかであって、思春期真っ只中の中学時代から心身共に疲労を感じながら勉強をする必要は無いと感じたからだ。それよりも、もっとたくさんのものに触れ、経験し、人格を形成する時間を大切にしたい方がいい。

3つ目は生徒は常に学校の管理下にあること。校則など、あれだめこれだめが多すぎる。私が経験したのは授業中に水分補給をしてはいけない、シャーペンを使用してはいけない、体育座りで何時間も話を聞かなければならないなど意味不明なルールが多数存在した。また、ランドセルの件も同じである。置き勉を禁止して、成長期の子供にあれほど重い荷物を毎日持たせて登校させるのもどうかと思う。そのせいか日本人は歩き方や姿勢が良くない。”フットマーク株式会社(本社：東京都墨田区、代表取締役社長：三瓶 芳)は、通学にランドセルを利用している小学1~3年生とその保護者1,200名を対象に「ランドセルの重さに関する意識調査」を実施した。多くの小学生が通学時に、ランドセルを重く感じていることが判明し、更に3人に1人が通学ブルーや肩の痛みなど心身への影響を感じていたことがわかった。”

「みんなは一人のために。一人はみんなのために。」といった精神論で統一させようとするのがお決まりである。例えば校則を設けたとして、それが実質役に立っているのだろうか。髪を染め、ピアスをしてきた生徒がそのとたん確実に成績が著しく下がるといったデータでもあるのか。おそらく、生徒が好き放題してきたら、学校側としてはまとめづらくなるからだろう。だがそれは学校側の都合であって、校則を設ける理由にはならない。学校は勉強しに行くところだというのがあれば、どんな格好をしていても問題ない。きちんと学校に行き、勉強していれば、もっぱら関係ないのである。大きくなったら責任をもって行動すること、多様性を認めることとよく言うわりには、校則をめぐって、個人にとっては部外者である学校が介入し、管理してくるのはいかなものか。

ランドセル<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000012937.html>

4つ目は日本人に合った教育内容ではないこと。私は現代の日本の教育の中で、異様なほど海外に憧れている部分があることに気がついた。いわゆる「積極性」という分野である。昔から、積極的に手を上げて発言しなさい。いちいち授業中に生徒を指名して答えさせる。といったものから、最近では一昔前では無かった、みんなの前で発表するという機会を増やしたり、とにかく前に出て感想や意見を述べなさいということも多い。しかしこれらは元々欧米圏のやり方であり、日本人の国民性に沿った方法ではない。なぜなら、日本古来の文化として、控えめで謙虚であることが奥ゆかしいとされており、現代でも積極的に前へ出ることはなかなかしづらいのが現状である。さらに、先ほども述べた通り、日本の学校では個性を無くして集団生活に溶け込まなければならぬので、一人飛び抜けたことをするのは良くない

いといった風潮もある。こういった日常がある上で、授業中のみ「積極性」を求められるのは生徒にとって苦痛でしかない。無駄に積極性を求める割には生徒に権力を振りかざして自由を無くすという学校に通わなければならないので、学生のストレスが半端ない。発言しないと成績が上がらないと脅してまでやらせることでは無い。SDGsも含め、むやみやたらに外国のやり方が正しいだとか進んでるだとか勝手に決めつけて取り入れるのではなく、日本は日本、海外は海外で良いところがあるのでそれらを上手く見極めることが今後大事になってくるだろう。

文科省https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318227.htm

実際に生徒に向けて行った学校教育の課題についてのアンケートの一部

・学校に来なくても完結する授業や式のために登下校に何時間もかけないといけないこと。オンラインで授業できるから、なんでもかんでも学校でする必要もないんじゃないかなと思いました。・入試に使わない教科も、時間合わせで受けないといけないこと

1件の回答

座学だけだと大変なのでもうちょっと動きのある授業が見たい

1件の回答

授業のスピードが速くて、十分理解出来てない人が置いて行かれてしまうこと。分からないことを聞きたくても聞けるタイミングがないこと。発言しなければいけない、また先生に指名されてみんなの前で発表する時、間違えてはいけないという雰囲気が出てしまっている。これが発表しないことに繋がってサイクル化されている。個性を出すことが許されない、外見や中身を含めて。

1件の回答

学校の校則、髪の毛とか服装とか勉強できればいいから特に関係ないと思う。外見が派手だからと言って勉強できる子もいるし、派手じゃなくても遊ぶ人はいるから。

1件の回答

学校に出席しないと単位が足りなくて留年したりする。(オンラインでもっと手軽に家で授業を受けたい。)遅刻、早退、欠席、してはダメな雰囲気がある。将来必要ではなさそうなことも学ばなければいけない。

1件の回答

授業中は、静かに先生の話聞くというのが常識みたいな感じになっているけれど、先生だけの意見を押し付けてくるだけではなく、生徒の意見や、グループワークなどを増やして、意見交換などをもっといっぱいの方がいいと思う。校則とかもなんでそこまでしないとイケないのかなと思うことばかりで、学校の授業や、勉強に支障がなければ、強い縛りを受けなくていいと思いました。

1件の回答

4結論

今後の課題として、どのように教育改革をすれば良いかを小学校・中学校・高校の順に分けて具体的な例を述べていこう。まず小学校ではランドセルの軽量化。置き勉を可能にし、荷

物を最低限にまで減らす。体に悪影響な体育座りをやめる。タブレット端末やインターネットを活用するなど。ただ基礎学力の低下にならないように、各教科の学習内容は今のままで良い。

次に中学校では主に受験中心の勉強をやめるために高校受験を廃止する。高校受験を無くすことにより心の余裕が生まれるので、本来の意味での「学習」や「道徳心」を学校生活の中で学ぶことができる。優秀になることが全てではないということを教える。普段の定期テストの結果を用いて、その子に合った高校へ自動的に振り分け、進学させる仕組みにする。さらに、昭和特有の無駄に厳しい体育の授業を見直す。

高校は義務教育ではないため、小中学校と大きく変える必要がある。まず基本は、自分が学びたい教科を最低3つまで選択し、それを自ら優先的に勉強できるようにする。教員が全てを管理するのではなく、個人学習を主にする。例として、教師が各教科ごとにテスト範囲を配布し、その内容を何月何日までに勉強してくださいとする。生徒は自分で教科書を使って勉強し、わからないことがあれば教師に聞く。学校に行って友達とグループワークで課題をしてもいいし、タブレット端末を利用して、家で勉強しても良い。とにかくやらされるのではなく、自ら考えることを大事にする。校則を廃止し、ストレスを無くす。また、高校生のうちに自分が何に向いているのかを少しでも見つけるために、高校生版インターンシップのような制度を取り入れてみても良いかもしれない。さらに社会に出てもすぐに役立つようなことも教える必要がある。例えば、今の政治の仕組みや投資、大人が企業で実際どのように働いているかなど、現代社会の実態を自由に学べる環境を作るべきだ。

おわりに

自分自身、教育について探究する中で深く感銘を受けた言葉がある。それは「協調ではなく調和」という言葉だ。これはNORIさんの精神世界探究チャンネルというYouTube内で発せられた言葉だ。協調というのは、あらゆることに対し、一人一人が個人の能力を一定まで上げる努力をすることで完璧になれるという意味なのに対し、調和は人それぞれが生まれながらに持つ、得意不得意の凸凹した個性を分かち合い、お互いがそれをパズルのピースのように補い合っていけばそれだけで社会は成り立つという意味で述べられていた。自分ができないことは他の人に助けてもらい、また自分が得意なことでも他の人を助ける。全て一人でこなすことはできない。こういった考えを幼い子供から教えていきたい。

これまで述べてきた通り、学校教育は個性を潰している。苦手なことは嫌でも必死に取り組まなければならないし、得意なことを伸ばすこともできない。これは結果的にオールマイティな人間を育てることはできても、何かに突出した才能ある人間を育てることはできない。いわば面白くない平凡な人間を育てるための教育といった感じだろうか。これにより、誰かがどうにかしてくれるだろうという考えが芽生え、自分で考え、社会をより良くするために行動するということをしなくなった。

皆教育に抑圧された環境で育ってきたため、自分に自信のないネガティブな気持ちになる人も少なくないだろう。しかし、気づいていないだけで、人は誰も何か一つ才能を持って生まれてきていると思う。そして自分に適した輝ける場所が必ずあるということを伝えていきたい。加えて、戦後から続く努力と忍耐を美とする教育方針は今すぐ辞めた方がいい。沢山苦労しないと立派な人間になれないという馬鹿真面目な考え方を改めるべきだ。時には努力も忍耐も必要だが、それだけで人生が終わっていくのを想像してみしてほしい。今の教育は子供たちに一生幸せになれない生き方を教えているといえる。

70年前では問題なかった教育は今ではもう古いし、その教育が生きづらい考え方を生み出し、日本を衰退させる原因の一つになっている。教育を変えるだけで全てが良い方向に向かうと思う。

調和を主とし、個性を活かし、自由で伸び伸びとした生き方を教え、将来に向けて生徒個人に合ったペースでサポートしてあげることが本来の教育のあるべき姿ではないのか。

出典

フットマーク株式会社「ランドセル症候群」Prtimes アクセス日. 2022年 9月16日

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000012937.html>

文部科学省。「師範教育に戻る」アクセス日 2022年 9月12日

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318255.htm

ノリ、「愛と調和の時代」ノリの精神世界探究チャンネル YouTube 2020年 9月18日

アクセス日 2022年 9月16日